

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号
特開2000-65466
(P2000-65466A)

(43) 公開日 平成12年3月3日(2000.3.3)

(51) Int.Cl.⁷
F 2 5 D 23/04

識別記号

F I
F 2 5 D 23/04

テーマコード(参考)
E

審査請求 未請求 請求項の数5 O L (全 3 頁)

(21) 出願番号 特願平10-238288
(22) 出願日 平成10年8月25日(1998.8.25)

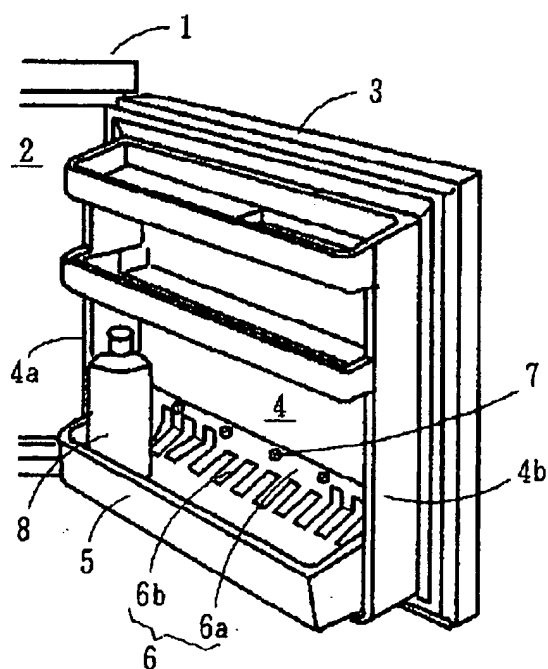
(71) 出願人 000006611
株式会社富士通ゼネラル
神奈川県川崎市高津区末長1116番地
(72) 発明者 安田 展三
川崎市高津区末長1116番地 株式会社富士
通ゼネラル内

(54) 【発明の名称】 冷蔵庫

(57) 【要約】

【課題】 冷蔵庫のドアポケット内に収納したビール瓶やペットボトル等が扉の開閉等により転倒しないようにする。

【解決手段】 ビール瓶やペットボトル等を収容するドアポケット5内の前後の何れか一侧に、弾性を有し、下端を他側に向けて屈曲させたくし歯状の支持体6を設けることにより、ドアポケット5にビール瓶等を収納する際、支持体6の先端が下方に屈曲し、その反発力によってビール瓶等が保持されることになり、扉3を開閉しても瓶が転倒することはない。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 ドアバックの下方にペットボトルやビール瓶を収容するドアポケットを備えた冷蔵庫において、前記ドアポケット内の前後何れか一侧に、弾性を有し、下端を他側に向けて屈曲させたくし歯状の支持体を設けてなることを特徴とする冷蔵庫。

【請求項2】 前記支持体を前記ドアバックに固着してなる請求項1記載の冷蔵庫。

【請求項3】 前記支持体を前記ドアバックに固着してなる請求項1記載の冷蔵庫。

【請求項4】 前記支持体の上部に前記ドアバックの上端部を挟持する挟持部を設けてなる請求項1または3記載の冷蔵庫。

【請求項5】 前記支持体の先端部を半円状に折り返してなる請求項1、2、3または4記載の冷蔵庫。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は冷蔵庫に係り、詳しくは、ドアポケットに収容された瓶類の転倒防止装置に関する。

【0002】

【従来の技術】従来のこの種の装置としては、特開平8-226751号等が提案されている。即ち、図5に示すように、ドアバック10の下方に位置するドアポケット11内に大小のペットボトルや瓶12を収容した際、それに合わせてドアポケット11とドアバック10間の距離を調節するためにドアポケット11の両側面に複数の凹部13を設け、同凹部13に仕切板（ガード）14を嵌合するようにし、その仕切板14の位置を図5の（B）に示すように瓶12の大きさに合わせて前後に調節するようにしている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、上記構成によると、仕切板14によって前後の位置が決められるため、ある大きさのものに合わせて仕切板14の位置合わせをすると、その他のものが収容できなくなり、効果的に収容できないといった欠点を有している。したがって、本発明においては、ペットボトルや瓶の大小に関係なく、これらを安定的に収容できる装置をドアポケット内に設けた冷蔵庫を提供することを目的としている。

【0004】

【課題を解決するための手段】本発明は上記課題を解決するためになされたもので、ドアバックの下方にペットボトルやビール瓶を収容するドアポケットを備えた冷蔵庫において、前記ドアポケット内の前後何れか一侧に、弾性を有し、下端を他側に向けて屈曲させたくし歯状の支持体を設けた構成とする。なお、前記支持体を前記ドアバックに固着した構成とする。または、前記支持体を前記ドアバックに固着した構成とする。また、前記ドアバックに固着する支持体の上部に前記ドアバック

の上端部を挟持する挟持部を設けた構成とする。また、前記支持体の先端部を半円状に折り返した構成とする。

【0005】

【発明の実施の形態】以下、本発明の実施の形態を図1～図4に基づいて説明する。図1は第1の実施の形態を示したもので、図において、1は冷蔵庫本体、2は冷蔵庫本体1の上部に区画形成された冷蔵室、3は一側上下が開閉自在に枢支された冷蔵室2の扉、4は扉3の裏側に設けられた合成樹脂製のドアバックで、その左右には土手4a、4bが突設されている。5はドアバック4下方の上記土手4a～4b間に両端に係合した断面し字状のドアポケット、6は上記ドアポケット5に対向するドアバック4に複数のネジ7を用いて固着した支持体で、上部の取付部6aと、下部のくし歯状に形成した支持片6bとにより構成され、弾性を有する合成樹脂により形成されている。

【0006】そして、支持片6bはドアポケット5側に屈曲されている。したがって、大きい瓶8等を入れた場合は図3の（A）に示すように支持片6bが下方に大きく屈曲し、その反発力によって瓶8等が弾圧され、転倒することなく保持される。また、小さな瓶9等の場合も支持片6bが下方に屈曲し、その反発力によって瓶9等が弾圧され、転倒することなく保持される。また、ドアポケット5内に入れた大小の瓶等が順不同に並んでいても、それぞれが上述のように支持片6bの反発力によって弾圧されるので、転倒することなく保持される。

【0007】次に第2の実施の形態を図2および図3の（B）に基づいて説明する。前記第1の実施の形態で説明した支持体6はその向きを前後逆転させることによりドアポケット5側に固着することもできるが、図2に示す支持体6Aでは、上部の取付部6aを逆U字状にして挟持部6cを形成し、この挟持部6cを利用してドアポケット5の上端部に固着するようにしたことが特徴となっている。図3の（B）はこの支持体6Aの使用形態を示したもので、先に説明した支持体6と同様に支持片6bの反発力によって大小の瓶8、9等が保持されることになり、扉3の開閉によって転倒することはない。なお、以上説明した支持体6および6Aではその支持片6bの先端部がくし状のまま（とがったまま）になっているが、例えば図4に示すように先端部を半円状に折り返した状態にすれば保持力をより高めることができる。

【0008】

【発明の効果】以上のように、本発明においては、ドアバック側或いはドアポケット側に下端を他側に向けて屈曲した弾性を有するくし歯状の支持体を固着してなるので、ボトルや瓶の大小に関係なく、これらを常に安定的に保持することができ、且つ、効率良く収容でき、便利で使い勝手の良い冷蔵庫を提供できる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の第1の実施の形態を示す扉の後方斜視

図である。

【図2】本発明の第2の実施の形態を示す要部拡大構成斜視図である。

【図3】本発明の第1の実施の形態を示す要部拡大側面図(A)および第2の実施の形態を示す要部拡大側面図(B)である。

【図4】本発明の第3の実施の形態を示す要部拡大側面図である。

【図5】従来例を示す扉の後方斜視図(A)およびドアポケット部の上面図(B)である。

【符号の説明】

1 冷蔵庫本体

2 冷蔵室

3 扉

4 ドアバック

4a、4b 土手

5 ドアポケット

6、6A 支持体

6a 取付部

6b 支持片

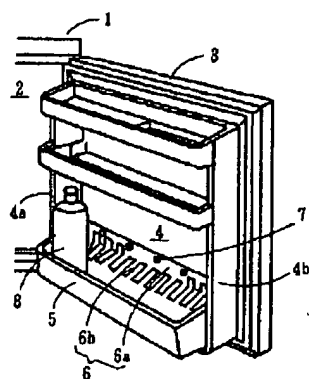
6c 挟持部

10 7 ネジ

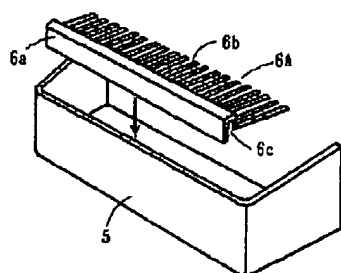
8 瓶(大きな瓶)

9 瓶(小さな瓶)

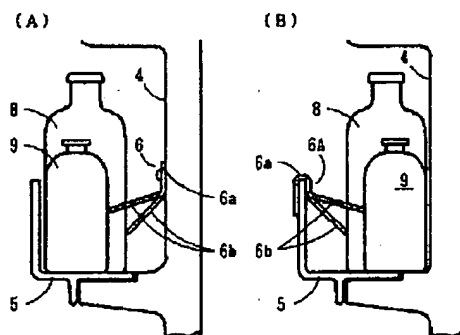
【図1】



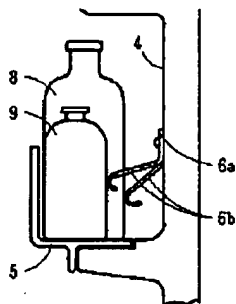
【図2】



【図3】



【図4】



【図5】

